



Title	ガリア掲載論文一覧(創刊号-第30号)
Author(s)	
Citation	Gallia. 1991, 30, p. 89-97
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5381
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ガリヤ掲載論文一覧

(創刊号～第30号)

創刊号 (1953年)

パスカルの道——「パンセ」を中心に	和田 誠三郎
風に寄する讃歌	ジョワシャン・デュ・ペレー 竹友藻風訳
フランス文学研究の一方向	伊吹武彦
哲学と文学	澤瀉久敬
アラン・フルニエ——夢とノスタルジー——	田中栄一
コルネイユ (一) 恋愛	持田 坦
マルローに於ける人間の問題	井上二郎
アメリカに於ける仏語学・仏文学に関する学位論文について	莊保三郎

第2号 (1954年)

フロオベール研究——書翰を通して見たる彼の藝術	和田 誠三郎
-------------------------	--------

第3号 (1955年)

パスカルと方法——《パンセ》を中心に	和田 誠三郎
ラ・フォンテーヌの「寓話詩」の文体因子について (1)	林和夫
Alain研究 I	原亨吉
ミュッセの藝術觀	田中栄一
「メリット」の体験	持田 坦
フランス文学批評の研究	向井敏

第4号 (1958年)

パスカルの「冥想錄」から——Pensée pascalienneについて	和田 誠三郎
《La Veuve》の問題	持田 坦
真空の問題にあらわれたパスカルの自然觀	赤木昭三
ラシース研究 (I) 悲劇性について	浅野 富美子
前期古典主義時代の劇と劇論——actionの單一性を中心として	伊地智 均
Fr. Rabelaisにおける否定の補充詞について——Pas, point et analogues——	梅垣 浩一

第5号 (1960年)

L'Evolution des Cultures et le Sens de l'Homme dans le Musée Imaginaire d'André

Malraux

Jean Béguier

前期古典主義演劇理論における action の問題

伊地智 均

モンテニュに於ける人間的理性の觀念

上 田 友 子

パスカルの数学論文についてのノート (1)

A. D. D. S. への手紙およびホイゲンスへの手紙をめぐって。運動学的な觀点から。

原 亨 吉

第6号 (1961年)

EXAMEN DES TEXTES MATHEMATIQUES DANS LES ŒUVRES COMPLETES
DE PASCAL D'APRES L'EDITION DES GRANDS ECRIVAINS DE LA
FRANCE

Kokiti Hara

第7号 (1962年)

Les révoltes de Simone de Beauvoir et l'existence d'autrui Jean Béguier
パスカルの「パンセ」における予言に関する一考察 森 川 甫
LA FONTAINE の自由間接話法 岡 野 輝 男
QUELQUES ADDITIONS A L'EXAMEN DES
TEXTES MATHEMATIQUES DE PASCAL Kokiti Hara

第8号 (1968年)

古代フランス語の自由間接話法 岡 野 輝 男
Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne は Madame de La Fayette の
作品だろうか? — Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne,
La Princesse de Clèves及びZaïdeに出現する語彙の比較 — 福 田 富 子
Madame Bovary研究 — 色と心理 — 難 波 崇 子
「感情教育」におけるクロノロジーとフローベールのリアリズムについて 中 島 真由美
BALZACにおけるユートピア的世界像の形成と階級意識 — 「田舎医者」論 — 草 壁 八 郎

第9号 (1969年)

イリュミナシヨンの初期作品の問題 泉 敏 夫
"UNE SAISON EN ENFER" ET "ILLUMINATIONS" Atsuko Takaoka

第10, 11合併号 (1971年) 和田誠三郎教授退官記念号

<i>De l'origine des fables</i> の独創性	赤木昭三
Marivaux劇とDancourt劇における娘たち	赤木富美子
<i>Cinna</i> における國是 <i>raison d'Etat</i> の確立	伊地智均
SUR LA SOURCE DU BATEAU IVRE	Toshio Izumi
ランボオ私見——Arthur Rimbaud——	上野茂男
現代詩への架橋——ボオドレエルからマラルメへ——	上村邦子
古代フランス語における自由間接話法のいわいる「近代的用法」について	岡野輝男
芥川龍之介に見るプロスペル・メリメ——「秋」と「二重の誤解」をめぐって——	
	柏木隆雄
RACINEの作品におけるAntithèseについて	高岡幸一
Paul Eluard avant Paul Eluard	宝子伸治
初期の「エセー」におけるエセイエの方法	竹田英尚
劇について——パスカル論序説のためのノート——	田辺保
「人間喜劇」における神と悪魔	中村加津
十字架の道	ポール・クローデル 中村篤子訳・解説
Proustの芸術的本質を表わすイマージュと作品構造——内容と形式の一致——	長谷川富子
PASCAL ET WALLIS AU SUJET DE LA CYCLOIDE (II)	Kokiti Hara
『聖アントワヌの誘惑』覚書——その二、ある未定稿をめぐって——	平田靖
モンテニュ研究の歴史——ヴィレーおよびボルドー市版以後;	
モンテニュ研究の問題と視点——	広島敏史
悲劇の終焉—— <i>SOPHONISBE</i> 論争によせて——	持田坦
西田哲学のパスカルへの共感	森川甫
COMMENT PEUT-ON ETRE PERSAN?	J.-L. Rousse

第12号 (1972年)

MARIE DE FRANCE——人物と作品の成立順——	大高順雄
<i>Les Nouvelles françoises</i> (1623) の新しさ	田子島屋和子
二人の怪異作家——泉鏡花に見るプロスペル・メリメ——	柏木隆雄
ヴァレリーの詩と建築——“海辺の墓地”をめぐって——	長谷川富子

第13号 (1973年)

<i>Le Palais d'Angélie</i> の魅惑と興味	田子島屋和子
Cyranoカルテジヤン (1)	赤木昭三

STRUCTURE SPATIALE DES TRAGEDIES RACINIENNES—LIBERATION D'UN
ESPACE CLOS DANS LA VIE INTERIEURE DE RACINE— Yasuko Takasima
モーリアック (1) モーリアックの思想構造 高瀬英彦

第14号 (1974年)

Cyranoカルテジヤン (2) 赤木昭三
パスカルの「三つの秩序」 永瀬春男
La Conscience historique de Voltaire Junko Takeda
マラルメにおける〈不毛性〉について 加覽伸彦
La Femme unique ou universelle dans la Poésie de Paul Eluard
— à travers la recherche de l'image de la "lumière" — Kazuko Nakajima

第15号 (1975年)

VIRGILE ET HESIODE—Notes sur l'allégorie de la *Renommée*
dans *l'Enéide* IV— Koichi Takaoka
La Signification morale dans *Les Nouvelles françoises* de Sorel Kazuko Orita
LA COURBE SENTIMENTALE—Etude sur *l'Education Sentimentale*—
Kayoko Kashiwagi

第16号 (1976年)

L'ETUDE DES RIMES DANS LES *LAIS* DE MARIE DE FRANCE Yoshitaka Haruki
モンテニュの思索の歩み—『エセー』の構造とその論理に見る—
— (その九) — 竹田英尚
LA COSMOLOGIE DE PAUL CLAUDEL JUNKO OKUDA
La Structure esthétique d'*Aventures de Jérôme Bardini* de Giraudoux Kazuyo Nakayama
モーリヤックの回心をめぐって 柏原紀久子
モーリアック (2) モーリアックの《enfance》考 高瀬英彦

第17号 (1977)

ボオドレエルにおける白鳥神話の位置 上村邦子
Images métaphoriques dans les *Poésies* d'Arthur Rimbaud Atsuko Takaoka
シモーヌ・ヴェーユ—その自由觀と現代文明批判— 宮川文子
Analyse formelle du récit dans *L'Etranger* d'Albert Camus Kikuko Tachibana

第18号 (1978年) 岸本通夫教授退官記念号

UN TEXTE MECONNNU SUR L'ATTRIBUTION DE L'HISTOIRE
COMIQUE DE FRANCION

Shozo Akagi

フランス語肯定文のイントネーションについて—名詞句に焦点をあてて—

初期マラルメにおける白鳥神話	阿 南 婦美代
「bobéobi」の“意味”—フレーブニコフと詩的言語—	上 村 邦 子
カタロニアの文学	枝 川 昌 雄
クローデルにおける《フォルム》の概念について	大 高 順 雄
『聖アントワヌの誘惑』における靈と肉	奥 田 純 子
『ウジェニイ・グランデ』献辞考	柏 木 加代子
ランボーの形而上学的闘争	柏 木 隆 雄
マラルメの想像的太陽—金髪詩篇をめぐって—	金 崎 博 子
REMARQUE SUR LA METAMORPHOSE DE LA JEUNE PARQUE	Takashi Sasabe
ANALYSE SEMANTIQUE STRUCTURALE DE L'ŒUVRE D'ALBERT CAMUS	
	Kikuko Tachibana

草稿ノート3の光の記述—『失われた時を求めて』の創造過程の一面について—

『三つの物語』の構図	長 谷 川 富 子
ロートレアモンに於ける悪	平 田 靖
シモーヌ・ヴェーユのキリスト教観—近代科学との関係から—	福 田 きみこ
L'UNIVERS DE VILLIERS DE L'ISLE-ADAM DANS SES CONTES—UNE	宮 川 文 子
ETUDE SUR LE RAPPORT ENTRE LA TECHNIQUE ET LE THEME—	

Hiroko Mukudai

第19号 (1979年)

デカルト『幾何学』への幾つかの新しい注	原 亨 吉
サン・テヴルモンの歴史観	竹 田 順 子
ロマン主義詩人と白鳥神話	上 村 邦 子
SUR L'ARRANGEMENT DES POEMES DANS LES FLEURS DU MAL	
『純な心』と『エロディアス』—『三つの物語』の制作意図を考える—	Nobuko Miyake
MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (1)	金 崎 春 幸
	Henri Micciolli

第20号 (1980年)

ジャン・ド・ショノに於ける証明の問題	永瀬 春男
ネルヴァルにおける祝祭の観念——《 <i>Voyage en Orient</i> 》=祝祭の中の旅——	七尾 誠
ボードレールにおける《海》の変貌——『惡の華』から『パリの憂愁』へ——	北村 卓
「車窓の夜明け」の4つの草稿——モチーフの増殖と変貌——	吉田 城
LE CHANGEMENT DE POINT DE VUE DANS A LA RECHERCHE <i>DU TEMPS PERDU</i>	Akio Wada
MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (2)	Henri Micciollo

第21, 22合併号 (1982年) 原亨吉教授退官記念号

ROHAULT, DESCARTES ET FRAGMENT	
DE PHYSIQUE DE CYRANO DE BERGERAC	Shozo Akagi
LA FONCTION MORALE DU RECIT ESOPIQUE DANS LES <i>FABLES DE LA FONTAINE</i>	Keiko Ishii
論説詩の崩壊——ロンサールの転機——	岩根 久
ヴァレリイの時間意識	岩間 正邦
Montaigneにみられる実存的思想の萌芽	上田 友子
象徴形成論の射程	枝川 昌雄
POUR RESTITUER LES MOTS ABREGES MANUSCRITS	Yorio Otaka
プロパガンダのストラテジー——ガルガンチュワの変貌と構成について——	鍛治 義弘
FLAUBERT ET LE THEATRE	Kayoko Kashiwagi
LE ROLE ET LA SIGNIFICATION DU CELIBATAIRE DANS PHYSIOLOGIE DU MARIAGE	Takao Kashiwagi
モーリヤックにおけるengagementと創作活動に関する一考察	柏原 紀久子
LES PONTS DANS L'EDUCATION SENTIMENTALE	Haruyuki Kanasaki
ボードレールの散文詩『孤独』に関する考察 ——「ラ・プレス」紙の「校正刷」をめぐって——	北村 卓
Nervalの晩年の作品に見られる自伝性の問題	小林 宣之
『ボヴァリー夫人』と当時の女性の状況	小山 美沙子
LUIGI RICCOBINIの催涙喜劇擁護	末次 義
マラルメの <i>Contes indiens</i> ——その書き換えのテクニックについて——	高岡 厚子
NOTES SUR L'EMPLOI DE L'ADJECTIF LAETUS CHEZ VIRGILE	Kooichi Takaoka
サン・テヴルモンの老年	竹田 順子
ヴィレーの『エセー』研究に対する一小批判	竹田 英尚

LECTURES STRUCTURALES DU *RENEGAT*ET DE *LA CHUTE* D'ALBERT CAMUS

Kikuko Tachibana

UNE ANALYSE DU "ROMAN" D'ANDRE GIDE

Nobuko Tatekawa

『東方の認識』における太陽のテーマ——永瀬純子
ジャン・ド・ションと「知慮」の概念——護教論と政治論の接点——(その1)

永瀬春男

バルザック『人間喜劇』における『十三人組物語』の意義

中村加津

クローデルの百扇帖について

中山篤子

*Les Filles du Feu*における《幽閉》のテーマと叙述構造

七尾誠

プルーストの内的世界とジオットの寓意画

長谷川富子

RESIDU DE L'ANALYSE GRAMMATICALE—IMPERSONNEL

DISCURSIF DU FRANÇAIS—

Yoshitaka Haruki

ヴィクトル・ユゴー『死刑囚最後の日』を廻って

前田俊一

シモーヌ・ヴェイユの「作家の責任」をめぐって

宮川文子

LA CRITIQUE D'ART DE BAUDELAIRE ET LAVATER

Nobuko Miyake

ヴィニーの想像的空間(Ⅲ)—*Idées*をめぐって—

向井邦夫

カルヴィニストとジェズイットの論争—パスカルの『プロヴァンシャルの手紙』

に対するヌエ神父の反駁文書に関連して—

森川甫

プルーストと性的風景

吉田城

『失われた時を求めて』におけるglissementの機能

和田章男

第23号(1983年)

ROHAULT, DESCARTES ET LE FRAGMENT DE PHYSIQUE

DE CYRANO DE BERGERAC (2)

Shozo Akagi

「ファチーノ・カーネ」小考

柏木隆雄

Angélique—Nervalの最初の自伝—

小林宣之

Les scènes à la manière d'Henry Monnier

dans la Première *Education Sentimentale*

Kayoko Kashiwagi

フローベールの作品における光—『ボヴァリー夫人』の場合—

小山美沙子

Un sonnet souvent décrié des *Fleurs du Mal*: *La Cloche fêlée*

Agnès Disson

*Les Faux-Monnayeurs*への過程

立川信子

シモーヌ・ヴェイユの労働觀—その主知的側面—

宮川文子

第24号(1984年)

ラブレーの笑いに関する一考察

——『パンタグリュエル』の三つの挿話をめぐって——	鍛治義弘
ラ・フォンテーヌ, 『ペストにかかった動物たち』における円環構造	石井啓子
MODERNITE DE VERLAINE: UN POEME, CHARLESROI	Agnès Disson
Délires II— <i>Alchimie du verbe</i> の一節への一解釈	小谷征生
アンドレ・ジッドの四つのレシの構成について	打田素之

第25号 (1985年)

白いヘレネーと黒いヘレネー (その一)	上村くにこ
Julien Sorelのhypocrisieと読み手の問題	柏谷雄一
ネルヴァルにおける《flânerie》(1)	七尾誠
ボードレールにおける散文詩制作の過程—1855~1862—	北村卓
Derniers récits ou nouveau roman?—Analyse des «histoires» dans les sept récits d'André Gide—	Motoyuki Uchida
シモーヌ・ヴェイユの労働観—工場体験と新たな方向—	宮川文子

第26号 (1986年)

白いヘレネーと黒いヘレネー (その二)	上村くにこ
La première version imprimée de <i>Du Bonheur de Fontenelle</i>	Shozo Akagi
スタンダール『恋愛論』における「恋人の長所」の実在性をめぐって	柏谷雄一
<i>Les Nuits d'octobre</i> —仮装された自伝—	小林宣之
<i>Une saison en enfer</i> におけるDélires I— <i>Vierge folle</i> の二重の働き	小谷征生
シモーヌ・ヴェイユの労働観—美とのかかわり—	宮川文子
使役構文について	木内良行

第27号 (1987年)

Qu'est-ce qu'ils ont vu du haut de Paris? —Sur le destin des héros balzaciens: Eugène de Rastignac et Lucien de Rubempré—	Takao Kashiwagi
『マルドロールの歌』の《ナラシオン》—『第一の歌』の受取人の問題—	寺本成彦
『狭き門』における三角形と四角形—レシの象徴的解釈—	打田素之
使役構文について (二)	木内良行

第28号 (1988年)

La figure du diable chez Noël du Fail: les <i>Contes et Discours d'Eutrapel</i>	Marie-Claire Bichard
Hécatombe à Dianeの世界	浜田明

Armance ou la construction oblique

ボードレールにおけるバルザック観の変遷
イリュミナシオン『暁』について

Yuichi Kasuya

金崎博子
小谷征生

*La métamorphose d'Orphée chez Cocteau—Sur le passage du
monde des vivants au monde des morts—*

Kazuyuki Matsuda

第29号 (1989年)

『人間喜劇』の序をめぐって——バルザックとロマン主義管見——
『ボヴァリー夫人』における《pyramide》と《papillons》について
Sur *Isis* de Villiers de L'Isle-Adam
Le mythe caché derrière les faits et l'histoire d'*Isabelle*
ロブ＝グリエ『消しゴム』における虚構創造の問題
使役構文について——移動を表す動詞の場合——

柏木 隆雄
戸田幹夫
Hiroko Konishi
Motoyuki Uchida
神田修悦
木内良行

創刊30号記念号 (1990年)

Remarques sur Balzac et Viellerglé
Baudelaire critique d'art——du Salon de 1845 au Salon de 1846——
ボードレールにおける「反=宗教」の思想——「聖なる壳春」と
『悪の華』の詩学——
Villiers de l'Isle-Adamの作品に隠された意味
Rimbaud et Jules Verne——Au sujet des sources du *Bateau Ivre*
Sur les images de la lumière dans *Le Soulier de Satin*
『ドルジェル伯の舞踏会』試論

Hachiro Kusakabe
Hiroko Kanasaki
徳永文和
小西博子
Atsuko Takaoka
Atsuko Kimura
松田和之

第6号以降は残部があります。お入り用の方は号数、部数明記の上お申し込み下さい。普通号500円、記念号1000円(送料別)です。